

こども環境学会 2008 年大会（東海）概要報告

こどものまなざしで

ゆめちょうだい いっしょにころんで いじめないで

開催概要

開催日：2008年4月25日（金）～4月27日（日）

会場：4月25日（金） 愛知国際児童館
4月26日（土）～27日（日） 名古屋工業大学

共催：名古屋市、愛知県医師会、東海病院管理学会、愛知公園協会

後援：内閣府、国土交通省、文部科学省、厚生労働省、環境省、国連地域開発センター、日本ユネスコ協会連盟、日本ユニセフ協会、日本建築家協会、都市計画コンサルタント協会、日本小児保健協会、日本公園緑地協会、公園緑地管理財団、都市緑化基金、都市緑化技術開発機構、全国建設室内工業協会、日本造園建設業協会、日本公園施設業協会、日本学術会議、日本建築学会、日本都市計画学会、日本造園学会、人間・環境学会、国際交通安全学会、日本安全教育学会、日本体育学会、日本保育学会、日本発達心理学学会、日本環境教育学会、日本子ども社会学会、IPA 日本支部、日本子ども NPO センター、愛知県、岐阜県、安城市教育委員会、犬山市、可児市、瀬戸市教育委員会、高浜市、高浜市教育委員会、多治見市、豊明市、豊明市教育委員会、豊田市教育委員会、中津川市、中津川市教育委員会、浜松市、美濃市、長久手町、愛知県私立保育園連盟、名古屋民間保育園連盟、伊勢新聞社、岐阜新聞、岐阜放送、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞社、読売新聞社、NHK 名古屋放送局（順不同）

賛助協賛企業団体数：42社

参加者数：約 500 人（2会場の延べ人数）

市民公開シンポジウムおよびワークショップ（4月25日）

参加者数：130人

名古屋工業大会会場（4月26日～27日）

参加者数：約 370 人〔会員：134人、学生 43人、名古屋市民、47人、名古屋市民以外 33人、参加費免除 15人、共催・後援・賛助会員・展示共催における招待者：約 60名、講演者：37名〕

第1日（4月25日）愛知国際児童館大会会場

開会宣言

挨拶：松本直司（大会実行委員長）、仙田満（本会会長）、塚本孝保（名古屋市長）、祝辞：小島通（愛知県健康福祉部長）



S1 市民公開シンポジウム「お医者さんへは、早く、上手にいてね」（愛知県医師会、東海病院管理学会共催）

S2 市民公開シンポジウム「こどもと色彩—色から見える心—」見学会「愛知県児童総合センター」

シンポジウム終了後、愛知県児童総合センターの見学会を行った。

第1日（4月25日）名古屋工業大会会場

W1 市民公開学生ワークショップ「こどもの遊びと環境」

大学生を中心に日本、中国、韓国、ブラジルの遊びを通じて、こどもの遊びと環境について活発な議論が交わされた。



第2日（4月26日）名古屋工業大会会場

開会式・基調講演

仙田満（放送大学教授：本会会長）「こども環境学会大会基調講演・こどもの成長の場とは：こどもが元気に育つ社会環境をめざして」

松本直司（名古屋工業大学大学院・ながれ領域教授：大会実行委員長）「こどもの空間研究を通して—こども達・夢を—」



K1【国際シンポジウム】「こどもの成長の場とは—こどもの遊びと安全な生活環境を考える—」

織田正昭（本会副会長）と木下勇（本会理事）の進行で、ティム・ギル（英）、カレン・マロン（豪）、汐見稔幸（本会副会長）らより、こどもたちの自発的な活動を保証する環境のあり方が議論された。

S3 シンポジウム「プレイフル・サンドアートと親子」

P1 パネルディスカッション「こどもと安全—日常的な危険や災害に対応するカー—」

W2 ワークショップ「こどもを取り巻く環境変化とこども条例」



総会

学会賞発表、2007年度事業報告、2007年度決算報告、2007年度役員就任ならびに学会規約改定、2008年度事業計画、2008年度予算計画が報告・提案され、承認された。

懇親会

名古屋工業大学校友会館で行われ、名古屋工業大学松井信行学長より挨拶。校友会館には美濃市、名古屋工業大学石松研究室と松本研究室の協力により「あかりアート」（美濃市提供）が展示された。



第3日（4月27日）名古屋工業大会会場

こども環境学会賞受賞者 記念講演会

論文賞2件、デザイン賞2件、活動賞2件の受賞者による講演会。

論文賞：塩川寿平（大地教育研究所所長）『大地保育環境論』、高橋鷹志（東京大学名誉教授）『子どもを育てるたてももの学』。

デザイン賞：手塚貴晴、手塚由比（手塚建築研究所）『ふじようちえん』、藤木隆男（藤木隆男建築研究所）、地域小規模児童擁護施設「樫（もみ）の舎（いえ）』。

活動賞：早川隆志（NPO 法人 富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊）『子どもイタズラ村からNPO 法人「子ども遊ばせ隊」の創設—遊びと農的体験を融合した21世紀型子育て支援・次世代育成事業—』、横英子（東横学園女子短期大学）『生涯学習サークル・アトリエたんぼの27年—アート活動による子育て支援の継続—』。

論文賞、デザイン賞、活動賞ならびにデザイン奨励賞、活動奨励賞は大会開催中にパネル展示を行った。

デザイン奨励賞：遠藤幹子、廣羽裕紀（officemikiko 一級建築士事務所）『Ar t—Loop—彫刻の森美術館・アートと遊びの融合空間—』。

活動奨励賞：草野裕作（伊座利の未来を考える推進協議会）『地域と学校は一つ：学校の灯火を消すな！を合言葉に漁村留学制度を導入』、田嶋茂典（愛知県児童総合センター）『愛知県児童総合センター「あそび」の活動 1996-2007』



S4 シンポジウム「こどもの心にぽつと希望の光をともし工夫—思いやり・共感性をいかに育むか—」
 K2【国際会議】パネルディスカッション「世界の子どもたち・日本での生活」
 P2 パネルディスカッション「こどもの環境・まち学習」



閉会式

各分科会からの報告/総括 大会宣言

大会開催中の合計10分科会（国際会議(2)、シンポジウム(4)、パネルディスカッション(2)、ワークショップ(2)）ごとに大会宣言に向けて座長の報告を整理した。全般的な総括を下記にまとめる。①分科会・講演会のタイトルならびにサブタイトルをキーワードとして、再強調した上で社会事象を1) 法律・経済、2) 科学・技術、3) 教育・倫理の観点からこども環境を解釈すべきである。②こどもは社会事象のなかを生を抜き、成熟していくものである。まずは、大人が成熟して、きちっと約束を守ることが必要である。③大会テーマ「こどものまなざし」を考えると、「おとなのまなざし」であり、おとなが約束を守れているかを自問することであり、これをなくしてこども環境の充実はいえない。各分科会等における結果は後日、大会宣言として発表する予定である。



ポスターセッション

ポスターセッション出展数：62点〔ポスターセッションA（学術研究）32点、ポスターセッションB（非営利団体の活動紹介）25点、ポスターセッションC（企業等の活動紹介）7点〕。
 ポスター総勢（優秀ポスター発表賞～審査員23名）：杉山祐一郎、松本直司「学童者の会新空間による生活環境の提案」、桑原洋司「幼少期における遊びと生活に関わる原体験からの考察」、林宗弘「ピクトグラム「魔見の里」から「いのちの輝き」を見つけよう」、石松文佳「環境体感型ワークショップの試み」、坂岸博之、大古博徳、上村耕平、河野喬、山口佳奈子「まちをつくらう～小学生が描く飯田橋～」、山下智也「子どもの環境への悦書の在り様～日常の子どもの遊び場「きんしゃいきかんばす」を拠点として～」。



特別展示

共催出展：名古屋市、愛知県児童総合センター（愛知公園協会）
 後援出展：愛知県、可児市、多治見市、美濃市
 実行委員会展示：K2【国際会議】：ワークショップ～自分の居場所をばく・わたしの好きな遊び場 82：こどもの色彩～風画展示、本村十名
 名古屋工業大学石松研究室：WANDER、美濃市：校友会館プロムナード～あかりアート、長谷川博一、森一男、名古屋工業大学松本研究室：校友会館前～あかりアート展示、名古屋工業大学石松研究室：校友会館前～あかりアート展示、名古屋市：こいのぼりの展示



大会宣言

- ① こどもと夢を築ろう
 - ② おとながいっしょにあそぼう
 - ③ こどものまなざしと個性を尊重しよう
 - ④ 在日外国人のこども環境をより良くしよう
 - ⑤ こどもが自由に遊べる環境を保障しよう
- （宣言全文は別紙を参照ください。）

2009年度大会（千葉）予定（実行委員長：木下勇・千葉大学教授）
 4月24日（金）～26日（日）開催予定。ご期待ください。

大会実行委員会：26名

- (1) 実行委員長 松本直司（名古屋工業大学大学院・教授）
- (2) 総務幹事 青木一郎（名古屋工業大学大学院・DC）、Ahmed Mansouri（名古屋工業大学大学院・DC）
- (3) 総務部会 部会長 矢野 勇（愛知産業大学大学院・教授）、幹事 高木清江（愛知産業大学・講師）
- (4) 会場部会 部会長 鈴木貴一（名古屋市立大学・教授）、幹事 藤木靖史（名古屋市建設局都市計画課）、幹事 野村 大（大の木保育園・園長）、杉山祐一郎（名古屋工業大学大学院・DC）、ソヘミン（名古屋工業大学大学院・DC）、美 延達（名古屋工業大学大学院・DC）
- (5) 分科会・講演会部会 部会長 官治 尚（名古屋市立大学前期・愛知県区部会）、幹事 加藤 肇（愛知県医師会総合政策研究機構主席研究員）、幹事 高井智代（株式会社IMX総合技術研究所空間技術開発部）、小林三太郎（愛知学院大学・講師）、島田龍道（愛知医療学院短期大学）、劉神亮彦（名古屋市青少年男子子ども育成部子ども育成部部長）、寺本 謙（愛知教育大学・教授）、舟橋 厚（愛知県コロンビー発達障害研究所・部長）、吉田順子（有限会社エコ・プランニング・代表）、吉田真穂（有限会社エコ・プランニング）
- (6) 本邦関係部会 部会長 藤部聖治（愛知工業大学・教授）、矢野 勇（幹事）、田中 賢（日本福祉大学情報社会科学部・准教授）
- (7) 広報・風気部会 部会長 藤田大輔（岐阜工業高等専門学校・講師）、幹事 北川浩介（名古屋工業大学大学院・准教授）、青木一宏（フリー）、呉 明宣（名古屋工業大学大学院・DC）

大会ボランティア協力：57名

愛知工業大学、南山女学院大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、日本福祉大学の各研究室

こども環境学会 2008年大会（東京）実行委員会

T 400-8555 名古屋市中区昭和区御所町
 名古屋工業大学大学院ながれ環境松本直司研究室
 TEL068-785-5510 FAX052-785-5589
 実行委員長 松本直司 総務幹事 青木一郎（要報告書作成）

こども環境学会 事務局

T 261-8588 千葉市美浜区若葉2-11 放送大学仙田清研究室
 TEL&FAX 043-298-4118
 URL: <http://www.children-environment.org>
 E-mail: info@children-environment.org
 事務局長 中山登

こども環境学会 2008 年大会(東海) 提言

「こどものまなざしで 一ゆめちょうだい いっしょにころんで いじめないでー」



こども環境学会
Association for Children's Environment

こども環境学会 2008 年大会(東海)は、2008 年 4 月 25 日(金)に愛知国際児童年記念館で、同 25 日の夕刻から 27 日(日)に名古屋工業大学で開催されました。国際シンポジウム、国際パネルディスカッションに加えて、3 つのシンポジウム、3 つのパネルディスカッション、2 つのワークショップ、ポスターセッション、見学会などが実施され、「こどものまなざしで 一ゆめちょうだい いっしょにころんで いじめないでー」をテーマに活発な議論が交わされました。これらのまとめとして、以下の 5 項目をここに提言し、これらの推進を呼びかけます。

こどもの成育環境の形成には、こどもがおとなに常に発しているメッセージを正確に捉え、こどものまなざし、感性を大事にしていくことが必要です。こどもと一緒に将来の楽しい夢を語れる、そんな環境を築いていきたいものです。

2008 年 5 月

こども環境学会 会長 仙田 満
同 大会実行委員長 松本直司



1. こどもと夢を語ろう

未来は、こどもたちの手によってつくられる。今のこどもたちには夢がないともいわれるが、それは今日の社会の反映でもある。私たちおとなは、こどもたちと夢を語り、こどもたちの心に、新しい未来をひらいてゆけるような夢を育む必要がある。



2. おとながいっしょにあそぼう

遊びは、こども自身を育むと同時に、「こどもと社会」、「おとなとこども」の関係を育む。おとながこどもといっしょに遊ぶことは、遊びを見失ってしまった今日の社会の中で、おとなをも育み、こどもとともに新しい未来をつくることへとつながる。



3. こどものまなざしと個性を尊重しよう

こどもは未完のおとなではない。こどもはおとなとは異なる感性や知性、発想や価値観を持っている。私たちおとなは、今日の社会にこどもたちを適応させるのではなく、その豊かな個性を活かし、子どもたちの主体性や能動性を育み、新しい未来をつくることに手を差し伸べる必要がある。

4. 在日外国人のこども環境をより良くしよう

在日外国人のこどもを取り巻く環境は、厳しいものがある。言葉の壁、慣習の相違、経済格差等もあり、友だちや地域社会とのコミュニケーションも十分にはできない。私たちはこうした現実を知り、在日外国人のこどもと親を取り巻く環境を積極的に改善してゆくことが必要である。



5. こどもが自由に遊べる環境を保障しよう

こどもは、環境の中で自らの能力を育む。他者との共感性や社会性、さまざまな危険に対する回避能力など生活に必要な能力が、遊びや生活体験をとおして育まれる。危険を危惧するあまり、親がこどもの行動を規制する傾向がみられるが、これはこどもが体験をとおして自らの能力を育むことを妨げることにつながる可能性がある。こどもが自由に遊べる環境を保障する必要がある。



Proposition

The 5th Annual Meeting of Association for Children's Environment in Tokai, 2008, Organized under the Main Theme of Through Children's Eyes: Give Me a Dream, Tumble with Me, Don't Be Mean

The participants of the 5th Annual Meeting of Association for Children's Environment in Tokai held at Aichi International Year of the Child Memorial Hall and the Nagoya Institute of Technology on 25-27 April, 2008,

Considering active deliberation through an international symposium, an international panel discussion, three symposiums, three panel discussions, two workshops, a series of poster sessions, an excursion and many other events organized under the main theme of "Through Children's Eyes: Give Me a Dream, Tumble with Me, Don't Be Mean,"

Recognizing the importance of accurately understanding regular messages sent from children and of appropriately respecting their points of view and sensibility in developing their growing environments,

Bearing in mind that our common aim is the environment in which children and adults together may discuss our pleasant dreams for the future,

Have agreed upon the following five proposals and have made an appeal to the public for their promotion:

1. Let Children and Adults Talk on Dreams Together

Children are torchbearers of our future, yet they are often said to have no dreams, reflecting our society today. Adults should talk with children on dreams and help them develop their own dreams for the new future.

2. Let Children and Adults Play Together

Play has an intrinsic value of raising child-society and adult-child relationships in addition to raising children. Now that playing has been lost in our society, adults' playing with children may contribute to nurturing ourselves and to building new future in collaboration with them.

3. Children's Points of View and Identity Should Be Respected

Children are neither small nor incomplete adults. They have sensibility, intelligence, ways of thinking, and senses of values different from adults. Children should be encouraged, but should not be urged, to express their fertile individuality, initiative and activity. Adults should give them a helping hand in creating their own new future.

4. Environment of Children of Foreign Workers in Japan Should Be Better Understood and Improved

Children of foreign workers in Japan are often placed in harsh living conditions. Language barriers, custom differences, economic disparities and many other problems prevent them from free communication and hinder their integration into friends and the local community. We should face up to this reality and extend our efforts to understand and improve children's environment to foreign workers in Japan.

5. All Children Should Have Free-To-Play Environment Guaranteed

Children gain their ability in their environments. Sympathy with others, social competence and avoidance of various risks are among essential abilities for life developed through play and all the related experience in actual life. Excessive anxiety about risks, which tends to drive parents into restricting the behavior of children, is likely to hinder the development of their ability otherwise acquired through experience. We should guarantee free-to-play environment for all children.

May, 2008

President of ACE SENDA Mitsuru

Director of the 5th Annual Meeting of ACE MATSUMOTO Naoji